

第

1

章

成田空港の運用状況



1 2018年度運用状況

1 航空機発着回数

成田空港における2018年度の航空機発着回数は、総発着回数が前年度の25万2447回を2%（4374回）上回る25万6821回と7年連続で開港以来の最高値を更新した。なお、国際線は4年連続で開港以来の最高値を更新したが、国内線は運休・減便もあり2%減と伸び率はマイナスに転じた。

国際線は2017年度を3%（5452回）上回る20万4366回で、年度として初めて20万回を突破した。旅客便においてアジア線、台湾線、韓国線などの新規乗り入れ、新規就航、増便があったことによるもので、新規乗り入れ航空会社は6社、既存航空会社の新規就航は貨物専用便を含め8社11路線を数えた。

このうち旅客便は17万8110回で、2017年度を4%（6379回）上回り過去最高を記録（従来の最高は2017年度の17万1731回）。貨物便は5%（1323回）減の2万3308回と、伸び率は再びマイナスに転じた。

国内線は新規就航があった一方で運休・減便もあり、2%（1078回）減の5万2455回と、伸び率はマイナスに転じた。

なお、開港以来の累計発着回数は2018年度末までで595万1108回に達した（図1-1、表1-1参照）。

(1) 国際線旅客便

国際線旅客便の発着回数はアジア線、台湾線、韓国線などの新規乗り入れ、新規就航、増便があったことにより過去最高を記録した。新規乗り入れ航空会社は6社5路線で、オーストリア航空のウィーン線、ノック

スクートのバンコク（ドンムアン）線、マンダリン航空の台中線、フィジー・エアウェイズのナンディ線、タイライオンエアーのバンコク（ドンムアン）線、ベトジェットスのハノイ線。既存航空会社の新規就航（2018年冬ダイヤ期間中の季節運休からの運航再開を含む）としては、エア・カナダのモントリオール線、チェジュ航空の大邱線、ロイヤルブルネイ航空のバンダルスリブガワン線などがあった。

路線別ではアジア線が7%（2837回）増の4万3152回とさらに伸びて、2017年度に続いて4万回台をキー

図1-2 国際線路線別発着回数（2018年度）

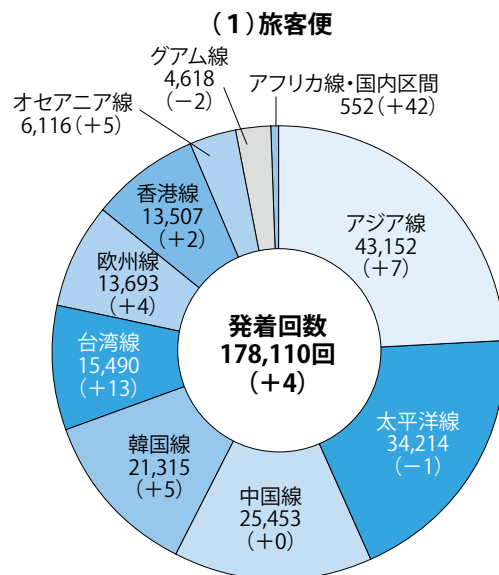
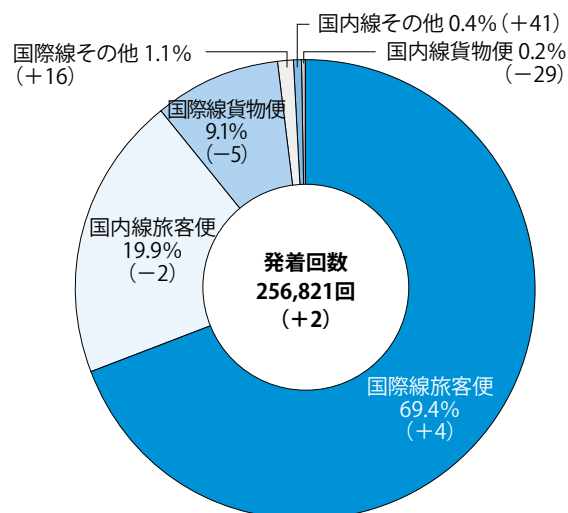
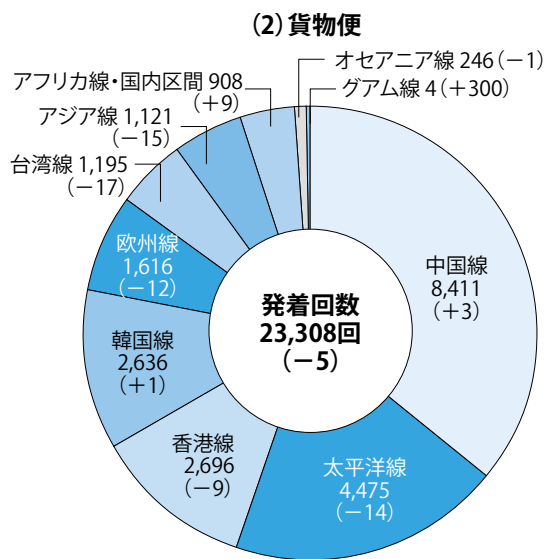


図1-1 航空機発着回数シェア（2018年度）



()内は、発着回数の前年度比(%)



()内は、発着回数の前年度比(%)



プ。太平洋線は1%(421回)減の3万4214回と伸び率は2年連続のマイナス。中国線は前年度並み(32回増)の2万5453回、韓国線は5%(964回)増の2万1315回と3年連続でのプラス。台湾線は13%(1842回)増の1万5490回と、伸び率は前年度の2桁のマイナスから2桁のプラスに転じた。欧州線は4%(509回)増の1万3693回と、2年連続でのプラス。香港線は2%(221回)増の1万3507回、オセアニア線は5%(317回)増の6116回とプラスの伸びだが、グアム線は2%(85回)減の4618回と引き続きマイナスとなった(図1-2(1)参照)。

(2) 国際線貨物便

国際線貨物便の発着回数の伸び率は、2015年度、2016年度と2年連続で前年度を下回った後、2017年度では3年ぶりにプラスとなったが、運休・減便もあり、2018年度は再びマイナスに転じた。新規乗り入れ航空会社はなかったものの、機体整備関係に伴い、運航停止が続いていた日本貨物航空のフランクフルト(ハーン)線が復便した。

路線別では中国線が3%(227回)増の8411回と引き続きプラスの伸びとなっているものの、太平洋線は14%(722回)減の4475回と、2年連続のプラスから2018年度はマイナスに転じた。香港線も9%(258回)減の2696回と前年度のプラスから再びマイナスに転じた。韓国線は1%(19回)増の2636回とプラスをキープしたが、欧州線は12%(230回)減の1616回と2年連続でのマイナス。台湾線は17%(238回)減の1195回と伸び率はマイナスに転じた。アジア線は15%(199回)減の1121回と、引き続き2桁のマイナスとなった(図1-2(2)参照)。

(3) 国内線旅客便

国内線旅客便の発着回数は、前年度比2%(1143回)減の5万1061回と、過去最高を記録した2017年度から、伸び率はマイナスに転じた。ジェットスター・ジャパンの長崎、高知、宮古(下地島)線、バニラエアの石垣線の新規就航があったものの、関西線や那覇線等の減便が影響した。なお、貨物便も減少したことなどにより、国内線全体でも発着回数は、2%(1078回)減の5万2455回にとどまった。

(4) 航空会社別

2018年度の国際線航空会社別発着回数で、旅客便は計40社が発着回数1000回以上となった。このうちトップ10の航空会社では、発着回数が2017年度と比べて増加した会社と減少した会社が、それぞれ5社ずつとなった。

トップの日本航空は2%(591回)増の3万33回となり

3万回の大台を記録。2017年9月に新規就航したメルボルン線、コナ線が通年で運航されたことやグアム線増便などが牽引。2位の全日本空輸は2%(527回)減の2万8810回で、エンジン点検のための減便・運休等が影響した。3位のユナイテッド航空は5%(427回)減の8013回。4位のデルタ航空はサイパン線・上海線の運休や、ホノルル線の減便などにより、31%(2471回)減の5424回と発着回数を大きく減らした。このほか、大韓航空は微減ながら前年並み。キャセイパシフィック航空は香港線等の増便により13%(506回)増の4361回、チェジュ航空は大邱線の新規就航などにより31%(985回)増の4177回と2桁の伸びを示した。中国国際航空、チャイナエアラインは微増で、ほぼ前年並みとなった(表1-2(1)参照)。

貨物便では、発着回数が500回以上の航空会社は13社で、そのうち9社が前年度を上回り、前年度を下回ったのは4社にとどまった。

トップのフェデラルエクスプレスは1%(60回)減の4606回で、伸び率は前年度のプラスからマイナスに転じた。2位の全日本空輸は6%(248回)増の4449回と伸び率は前年度のマイナスからプラスに転じて、2017年度の3位から2位に順位を上げた。2017年度でトップだった日本貨物航空は、機体整備関係に伴う運航停止などが大きく影響して、50%(2786回)減の2781回にとどまり、順位は3位に後退した。なお、発着回数500回以上の13社の中では、2017年3月に新規就航したアトラスエアが、その後も便数を順調に増やしてきたことから、58%(259回)増の703回と、最も高い伸びを示している(表1-2(2)参照)。

(5) 機材別

国際線旅客便において、発着回数全体に占めるB747型機やB747-400型機などといった大型機のシェアは、年を追うごとに減少傾向にある。開港時(1978年度)には半数近くを占めていたものの、2018年度は2730回(シェア2%)と3000回を下回った。

B777級の中型機は、開港以来、ほぼ順調に増加し、2018年度は12万464回(シェア68%)と12万回台に達した。

また、ローコストキャリア(LCC)の乗り入れ増加等を背景に、A320型機やB737型機クラスの発着回数は年々増加を続けている。2007年度に初めて1万回を超えて以降、一本調子で増加。2018年度は5万4916回(シェア31%)となった(図1-3(1)参照)。

貨物便も、旅客便ほど顕著ではないものの、旅客便と同様に、大型機の漸減傾向と中型機の増加傾向が続いてきており、B747級の発着回数は2018年度に

表1-1 空港運用状況 (2018年度～2019年9月)

区分	1978.5.21～ 2018.3.31 までの計	2018年度												2019年度												累計
		確定値												速報値												
		上期(日平均)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年度計	日平均								
航空機発着回数(回)	5,694,287	128,652 (102)	21,996 (103)	20,821 (101)	21,622 (101)	21,755 (103)	19,550 (102)	22,425 (103)	256,821 (102)	704	21,768 (104)	22,335 (104)	21,763 (105)	23,078 (107)	23,858 (107)	22,324 (103)	135,126 (105)	738	6,086,234							
国際線	5,138,134	102,609 (103)	17,476 (104)	16,540 (102)	17,069 (101)	17,207 (102)	15,700 (103)	17,765 (104)	204,366 (103)	560	17,404 (104)	17,662 (104)	17,218 (104)	18,104 (105)	18,469 (105)	17,647 (102)	106,504 (104)	582		5,449,004						
旅客便	4,295,702	89,592 (104)	15,166 (104)	14,224 (102)	14,895 (103)	15,145 (104)	13,796 (104)	15,292 (104)	178,110 (104)	488	15,045 (105)	15,484 (105)	14,894 (103)	15,760 (103)	16,218 (104)	15,261 (101)	92,662 (101)	506			4,566,474					
貨物便	760,979	11,674 (95)	1,985 (100)	2,027 (94)	1,911 (90)	1,835 (91)	1,702 (94)	2,174 (97)	23,308 (95)	64	2,082 (98)	1,963 (95)	2,118 (112)	2,102 (115)	1,945 (108)	2,092 (106)	12,302 (105)	67				796,589				
その他	81,453	1,343 (110)	325 (148)	289 (144)	263 (103)	227 (110)	202 (100)	299 (119)	2,948 (116)	8	277 (109)	215 (111)	206 (97)	242 (127)	306 (148)	294 (103)	1,540 (115)	8	85,941							
国内線	556,153	26,043 (94)	4,520 (100)	4,281 (100)	4,553 (103)	4,548 (108)	3,850 (98)	4,660 (103)	52,455 (98)	144	4,364 (103)	4,673 (108)	4,545 (111)	4,974 (115)	5,389 (114)	4,677 (108)	28,622 (110)	156		637,230						
旅客便	530,452	25,342 (94)	4,382 (100)	4,161 (100)	4,428 (103)	4,425 (108)	3,764 (98)	4,559 (103)	51,061 (98)	140	4,224 (102)	4,520 (107)	4,386 (111)	4,782 (115)	5,189 (112)	4,511 (107)	27,612 (109)	151			609,125					
貨物便	4,835	237 (68)	49 (69)	44 (63)	45 (62)	35 (88)	31 (103)	48 (91)	489 (71)	1	37 (93)	37 (106)	41 (95)	72 (185)	45 (173)	34 (63)	266 (112)	1				5,590				
その他	20,866	464 (134)	89 (133)	76 (177)	80 (211)	88 (173)	55 (141)	53 (88)	905 (141)	2	103 (210)	116 (207)	118 (153)	120 (92)	155 (246)	132 (148)	744 (160)	4	22,515							
航空旅客数(人)	1,027,991,651	21,731,909 (106)	3,605,392 (105)	3,439,114 (103)	3,543,079 (105)	3,577,933 (107)	3,351,199 (104)	3,927,366 (106)	43,175,992 (105)	118,290	3,575,700 (103)	3,625,509 (106)	3,615,315 (105)	3,892,520 (105)	4,208,294 (105)	3,690,467 (100)	22,607,805 (104)	123,540		1,093,775,448						
国際線	961,896,476	18,110,437 (109)	2,986,978 (106)	2,843,829 (104)	2,925,965 (106)	2,981,464 (108)	2,793,705 (105)	3,228,313 (106)	35,870,691 (107)	98,276	2,989,337 (103)	2,980,830 (105)	2,993,118 (103)	3,202,908 (104)	3,423,230 (104)	3,031,417 (97)	18,620,840 (103)	101,753			1,016,388,007					
日本人	532,416,766	7,176,089 (106)	1,190,664 (108)	1,199,365 (102)	1,148,451 (107)	1,116,636 (104)	1,124,306 (104)	1,427,494 (103)	14,383,005 (105)	39,405	1,016,270 (108)	1,133,187 (111)	1,089,843 (104)	1,206,727 (104)	1,626,387 (105)	1,413,761 (97)	7,486,175 (104)	40,908				554,285,946				
外国人	245,581,650	8,990,936 (115)	1,498,080 (108)	1,375,196 (107)	1,443,380 (105)	1,483,174 (110)	1,381,281 (106)	1,556,981 (110)	17,729,028 (111)	48,573	1,751,849 (103)	1,528,251 (105)	1,509,527 (103)	1,606,061 (103)	1,472,999 (103)	1,335,536 (97)	9,204,223 (102)	50,296	272,514,901							
通過客	183,898,060	1,943,412 (96)	298,234 (92)	269,268 (96)	334,134 (105)	381,654 (109)	288,118 (101)	243,838 (96)	3,758,658 (98)	10,298	221,218 (89)	319,392 (91)	393,748 (103)	390,120 (108)	323,844 (101)	282,120 (101)	1,930,442 (99)	10,549		189,587,160						
国内線	66,095,175	3,621,472 (94)	618,414 (101)	595,285 (99)	617,114 (103)	596,469 (106)	557,494 (98)	699,053 (105)	7,305,301 (98)	20,015	586,363 (102)	644,679 (102)	622,197 (111)	689,612 (113)	785,064 (111)	659,050 (111)	3,986,965 (110)	21,787			77,387,441					
国際航空貨物量(t)	61,039,430	1,104,865 (97)	193,691 (99)	180,806 (90)	171,508 (86)	154,363 (88)	140,441 (84)	183,923 (90)	2,129,597 (93)	5,835	170,445 (86)	162,292 (84)	172,170 (96)	173,655 (100)	166,067 (99)	175,221 (92)	1,019,850 (92)	5,573				64,188,877				
積込	28,455,975	558,338 (101)	95,113 (100)	88,796 (92)	83,859 (87)	73,635 (87)	69,853 (84)	86,215 (86)	1,055,809 (95)	2,893	83,146 (84)	76,345 (77)	83,652 (90)	81,286 (94)	77,556 (93)	80,800 (83)	482,785 (86)	2,638	29,994,569							
輸出	20,332,969	386,356 (115)	71,142 (119)	62,958 (105)	59,795 (95)	49,831 (92)	52,139 (91)	58,337 (85)	740,558 (106)	2,029	54,227 (84)	46,527 (74)	53,094 (81)	48,082 (80)	46,350 (80)	49,226 (66)	297,506 (77)	1,626		21,371,033						
仮陸揚	8,123,006	171,982 (79)	23,971 (69)	25,838 (71)	24,064 (71)	23,804 (78)	17,714 (69)	27,878 (86)	315,251 (76)	864	28,919 (84)	29,818 (84)	30,558 (112)	33,204 (126)	31,206 (123)	31,574 (137)	185,279 (108)	1,012			8,623,536					
取卸	32,583,455	546,527 (94)	98,578 (98)	92,010 (88)	87,649 (85)	80,728 (89)	70,588 (84)	97,708 (94)	1,073,788 (92)	2,942	87,299 (88)	85,947 (90)	88,518 (103)	92,369 (106)	88,511 (104)	94,421 (101)	537,065 (98)	2,935				34,194,308				
輸入	24,668,820	389,631 (102)	76,703 (112)	68,853 (96)	66,007 (93)	58,883 (93)	54,469 (90)	71,220 (97)	785,766 (100)	2,153	60,599 (90)	59,549 (94)	60,099 (99)	62,364 (98)	56,685 (91)	65,926 (91)	365,222 (94)	1,996	25,819,808							
仮陸揚	7914,635	156,896 (77)	21,875 (69)	23,157 (69)	21,642 (68)	21,845 (81)	16,119 (68)	26,488 (88)	288,022 (76)	789	26,700 (82)	26,398 (82)	28,419 (114)	30,005 (127)	31,826 (139)	28,495 (137)	171,843 (110)	939		8,374,500						
給油量(kt)	171,768,619	2,205,981 (98)	376,584 (103)	363,856 (98)	376,015 (98)	379,277 (99)	340,822 (98)	389,134 (103)	4,431,669 (99)	12,142	384,256 (105)	380,202 (102)	375,817 (105)	381,581 (103)	392,631 (105)	371,421 (101)	2,285,907 (104)	12,491			178,486,196					

(注) 1. () 内数値は、前年同期比。2. 航空機発着回数は、回航翼機を除く。3. 国内線旅客数は、回航翼機によるものを除く。4. 国際航空貨物量は、東京羽田間の資料による。5. 給油量は、単位未満を四捨五入している。



表1-2 国際線航空会社別発着回数(2018年度)

(1) 旅客便(1,000回以上)

航空会社	発着回数(回)	前年度比(回)	前年度比(%)
日本航空	30,033	591	2
全日本空輸	28,810	-527	-2
ユナイテッド航空	8,013	-427	-5
デルタ航空	5,424	-2,471	-31
バニラエア	4,773	-903	-16
大韓航空	4,679	-29	-1
キャセイパシフィック航空	4,361	506	13
チェジュ航空	4,177	985	31
中国国際航空	3,742	10	0
チャイナエアライン	3,654	6	0
ティーウェイ航空	2,919	534	22
フィリピン航空	2,914	187	7
ベトナム航空	2,866	92	3
アメリカン航空	2,756	-140	-5
香港エクスプレス航空	2,684	328	14
中国東方航空	2,510	10	0
ジェットスター・ジャパン	2,293	113	5
タイ国際航空	2,276	182	9
ジンエアー	2,214	754	52
アジアナ航空	2,206	-415	-16

航空会社	発着回数(回)	前年度比(回)	前年度比(%)
エバー航空	2,196	14	1
シンガポール航空	2,190	±0	0
エアブサン	2,185	131	6
香港航空	2,184	2	0
タイ・エアアジアX	2,061	587	40
セブパシフィック航空	1,949	496	34
スクート・タイガーエア	1,892	894	90
中国南方航空	1,878	2	0
タイガーエア台湾	1,872	128	7
春秋航空日本	1,764	308	21
イースター航空	1,602	-204	-11
エア・カナダ	1,561	-41	-3
エアソウル	1,468	960	189
カンタス航空	1,430	-16	-1
エアー・ジャパン	1,404	660	89
マレーシア航空	1,401	154	12
アリタリア-イタリア航空	1,367	-5	0
ジェットスター航空	1,166	-66	-5
厦門航空	1,146	28	3
フィンランド航空	1,142	240	27

(2) 貨物便(500回以上)

航空会社	発着回数(回)	前年度比(回)	前年度比(%)
フェデラルエクスプレス	4,606	-60	-1
全日本空輸	4,449	248	6
日本貨物航空	2,781	-2,786	-50
ポーラーエアカーゴ	2,555	145	6
ユナイテッドパーセルサービス	2,298	-36	-1
大韓航空	712	91	15
アトラスエア	703	259	58

航空会社	発着回数(回)	前年度比(回)	前年度比(%)
ルフトハンザカーゴ	688	16	2
エアホンコン	621	3	1
キャセイパシフィック航空	596	4	1
エアー・ジャパン	573	-114	-17
チャイナエアライン	527	27	5
エアブリッジカーゴ	508	87	21

※前年度比は小数点以下四捨五入

は8813回(シェア38%)と、2010年度以来の8000回に減少した。

一方、B777型クラスについては年々増加を続けており、2018年度に過去最高となる1万4408回を記録し、シェアも60%台に達した(図1-3(2)参照)。

2 航空旅客数

2018年度の航空旅客数は4317万5992人で、国際線外国人旅客数が好調だったことなどにより、2017年度を5%(223万6097人)上回って、4年連続で開港以来の最高値を更新した(表1-1参照)。

(1) 国際線旅客数

伸び率は4年連続のプラスで前年度を7%(239万1481人)上回る3587万691人と、これまでの最高で

あった2006年度の3418万5230人を上回って最高値を更新するとともに、年度として初めて3500万人を突破した。外国人旅客数が引き続き好調だったことに加えて日本人旅客数も堅調に推移した。しかし通過客は、アジアと北米を結ぶ直行便の増加の影響などを受けて、引き続き減少した。

[日本人旅客数]

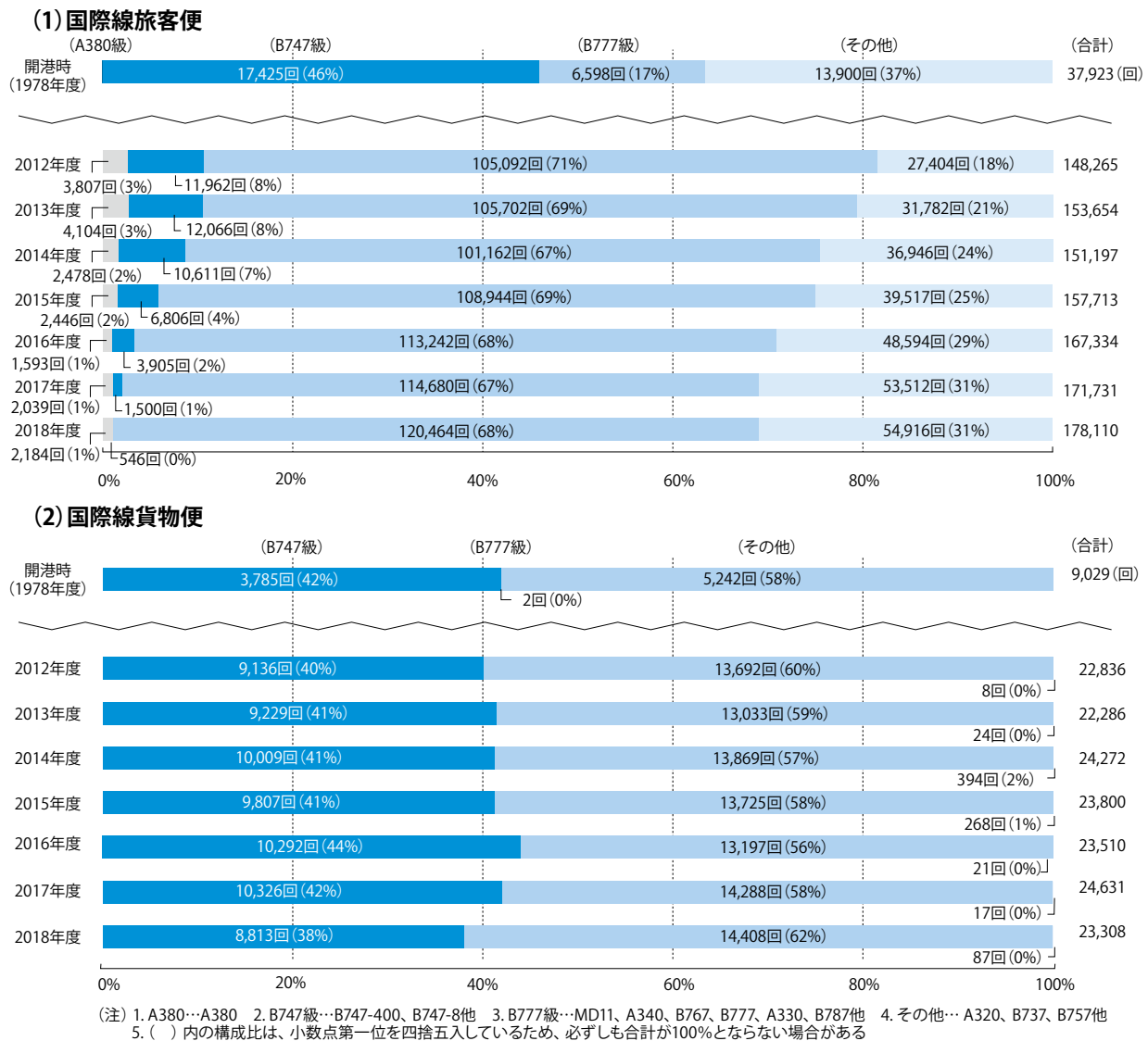
伸び率は3年連続のプラスで、前年度を5%(68万2586人)上回る1438万3005人となった。これまでの最高値は2004年度の1935万1890人。訪日外国人旅客数が引き続き拡大するのに伴い、航空ネットワークや便数等が拡大、日本人の海外旅行市場にも追い風になっているものとみられる。日本全体でも日本人出国者数は、年度として最高の1924万人に達している。

成田空港における年度内の各月の前年同月比の推

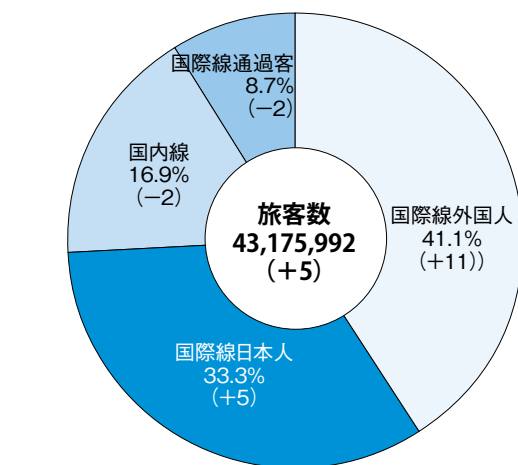
移を見ても、前年度を下回った月はなく、特に9月には12%増と2桁の伸びを示した。人数ベースでも4月は約

95万人だったものの、それ以外の月はいずれも100万人を上回っている。

図1-3 年度別機材構成比の推移



(参考) 航空旅客数のシェア (2018年度)



(注) () 内は人数の前年度比 (%)

(参考) 国際線路線別出発旅客数 (2018年度) (単位: 百人)

路線別	出発客 (人) (A+B)	出国数 (人) (A)	通過客 (人) (B)
太平洋	36,277 (99.2)	27,039 (100.1)	9,238 (96.8)
欧州	14,729 (109.1)	14,208 (109.2)	522 (107.1)
オセアニア	6,836 (105.3)	6,178 (105.3)	657 (106.0)
グアム	4,391 (92.9)	4,059 (94.4)	332 (94.4)
アジア	45,115 (111.2)	39,080 (111.8)	6,035 (107.8)
台湾	15,113 (112.3)	14,488 (112.7)	625 (102.2)
香港	15,564 (108.0)	15,280 (108.2)	285 (98.1)
中国	20,999 (107.7)	20,467 (108.5)	532 (84.8)
韓国	19,451 (112.1)	18,887 (115.4)	564 (57.7)
アフリカ	486 (164.5)	482 (164.1)	3 (164.1)

(注) () 内は人数の前年度比 (%)
単位未満四捨五入のため合計と一致しないことがある



[外国人旅客数]

日本全体でも訪日外国人旅客数が年度として最高の3163万人を記録する中で、成田空港でも訪日需要は引き続き好調で、路線・便数の拡大とともに増加し、前年度を11%(178万7553人)上回る1772万9028人と、5年連続で開港以来の最高値を更新した。

年度内の各月の前年同月比の推移を見ると、8カ月で2桁台の伸び率を示し、特に6月には21%増と、2018年度の中では最も高い伸びを示した。さらに人数では4月に、単月としては過去最高となる170万5083人を記録。初めて170万人を突破した。

[通過客数]

前年度を2%(7万8658人)下回る375万8658人となり6年連続でのマイナスとなったが、17%減だった2017年度に比べると減少率は落ち着きを見せている。開港以来の最高は2004年度の669万3434人。減少の背景にあるのは、アジア主要都市の急速な経済成長に伴う航空需要の増大や航空機材の高性能化により、米系航空会社による成田空港を経由しないアジアと北米間の直行便が増加していることなど。

(2) 国内線旅客数

前年度を2%(15万5384人)下回る730万5301人で、9年連続で最高値を更新していた2017年度からは減少したが、それでも過去第2位の旅客数となっている。新路線としてはジェットスター・ジャパンの長崎、高知、宮古(下地島)線、バニラエアの石垣線が就航したが、関西線や那覇線の減便等が影響した。

3 航空貨物・取扱額

2018年度の国際航空貨物量は、前年度比7%(15万2500トン)減の212万9597トンとなり、伸び率は2年連続でのプラスからマイナスに転じた。米中貿易摩擦の長期化や両国経済の減速、日韓関係の悪化等が影響しているものとみられる。

このうち輸出は、6%(4万1267トン)増の74万558トンとなった。2017年度からの勢いを持続し、11月までは各月とも1桁または2桁の伸びを記録。12月からはマイナスに転じたが、年度としてはプラスの伸びをキープした。輸入は前年度をわずかに下回る78万5766トン。輸出と同様の傾向で、10月までは前年度を上回る月もあったが、11月からはマイナスの伸び率が続いた。

一方、仮陸揚貨物は積込が24%(9万7319トン)減の31万5251トン、取卸も24%(9万2829トン)減の28万8022トンで、合計は24%(19万148トン)減の60万3273トンとなり、6年連続で開港以来の最高値を更新

していた2017年度からは大幅なマイナスに転じた。(表1-3参照)。

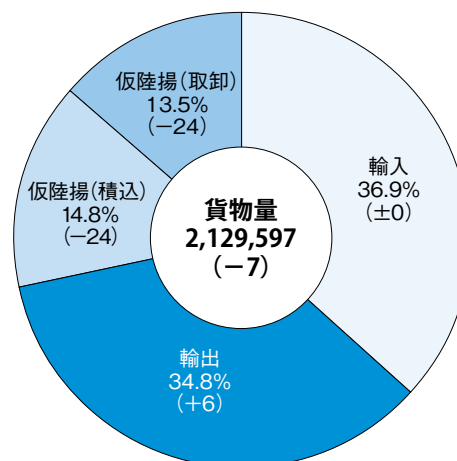
また、成田空港の航空貨物は金額ベース(東京税関まとめの2018年分)で、輸出額は前年比2.6%増の11兆4588億円と、6年連続のプラスとなった。全国の輸出額に占める成田空港のシェアは14.1%で、前年より0.2ポイント減少した。一方、輸入は同11.9%増と2年連続のプラスで13兆7040億円。2桁の伸びで、全国の輸入額に占める成田空港のシェアは16.6%と、前年より0.4ポイント増加した。輸出入額のバランスは2兆2452億円の赤字(輸入超過)で、8年連続での輸入超過となっている(表1-4参照)。

主要品目の動向で輸出では、半導体等製造装置が10.9%増の7971億円(シェア7.0%)、科学光学機器が5.9%増の7056億円(同6.2%)、ICが12.3%増の5046億円(同4.4%)と順調に増加。このほか、電気回路等の機器も9.6%増の4902億円(同4.3%)となったが、映像記録・再生機器は38.1%減の829億円(同0.7%)と大幅に減少した。

輸入の主要品目では通信機が0.5%減の1兆9129億円(同14.0%)とわずかに減少したものの、医薬品は25.0%増の1兆5860億円(同11.6%)、ICは10.3%増の1兆2968億円(同9.5%)と大幅な伸び。このほか、原動機が41.0%増の6066億円(同4.4%)、電算機類が14.7%増の1兆402億円(同7.6%)などとなっている。

主要国・地域別の輸出で米国向けは、5.1%増の1兆8983億円で、内燃機関の増加などにより輸出額は2年連続での増加。EU向けは10.0%増の1兆4470億円で、有機化合物の増加などにより3年連続での増加。アジアは同4.4%増の7兆1812億円で2年連続での増加。そのうち中国は半導体等製造装置等の増加により1.5%増の3兆1421億円、ASEANはIC等の増加により6.0%増の2兆1250億円で、輸出額は共に2年連続での増加

(参考) 航空貨物量のシェア (2018年度)



(注) ()内はトン数の前年度比(%)

となった。

一方、輸入で米国は、原動機などの増加により14.1%増の2兆7046億円と2年連続での増加。EUは、医薬品などの増加により13.4%増の2兆9753億円と、伸び率は3年ぶりに増加に転じた。また、アジアは8.8%増の6兆4061億円と2年連続での増加。そのうち中国は電算機類などの増加により6.4%増の3兆3889億円、ASEANは半導体等製造装置などの増加により6.2%増の1兆6478億円となり、伸び率は共に2年連続での増加となった(表1-5参照)。

4 給油量

給油量は、前年度比1%(3万6043KL)減の443万1669KLで、伸び率は5年連続のマイナスとなった。これまでの最高値は2004年度の589万205KLだが、その後はマイナス基調に転じている(表1-6参照)。

航空機発着回数は2018年度において7年連続で開港以来の最高値を更新するなど、総発着回数は増加が続いている。一方で、LCCの増加等による機材の小型化や低燃費化などの影響を受けて、給油量は減少傾向を続けている。

ちなみに10年前の2008年度と比べると、総発着回数は19万1331回から25万6821回に34%増加。それに対して給油量は521万556KLから443万1669KLに15%減少している。

また、国際線旅客便の航空機発着回数で機種別のシェアを見てみると、2008年度は大型機が25%、中型機が66%、小型機などその他のクラスが10%だった。これが2018年度では、大型機は2%に減少、中型機は68%、小型機などその他のクラスが31%と、小型機のシェアが10年前の約3倍に増えていることが分かる(小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある)。

表1-3 航空貨物量

(単位:トン)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
総 量	1,985,637 (103)	2,076,260 (105)	1,981,390 (95)	2,140,075 (108)	2,282,097 (107)	2,129,597 (97)
輸 出	575,717 (99)	634,027 (110)	573,653 (90)	613,564 (107)	699,291 (114)	740,558 (106)
輸 入	799,418 (97)	750,740 (94)	706,057 (94)	733,520 (104)	789,385 (104)	785,766 (100)
仮陸揚	610,502 (119)	691,493 (113)	701,680 (101)	792,991 (113)	793,421 (100)	603,273 (76)

()内は前年度比

表1-4 2018年貿易概況(確定)

(単位:億円、%)

	輸出額			輸入額			差引額
	価額	伸び率	全国比	価額	伸び率	全国比	価額
東京港	60,398	3.0% 2年連続の増	7.4%	116,565	▲0.4% 2年ぶりに減	14.1%	▲56,167 18年連続の輸入超過
成田空港	114,588	2.6% 6年連続の増	14.1%	137,040	11.9% 2年連続の増	16.6%	▲22,452 8年連続の輸入超過
羽田空港	3,630	▲20.9% 2年ぶりに減	0.4%	9,826	15.2% 5年連続の増	1.2%	▲6,197 9年連続の輸入超過
管内	181,190	2.1% 2年連続の増	22.2%	271,734	6.5% 2年連続の増	32.9%	▲90,544 18年連続の輸入超過
全国	814,788	4.1% 2年連続の増	100.0%	827,033	9.7% 2年連続の増	100.0%	▲12,246 3年ぶりに輸出超過
為替レート: 税関長公示レートの平均値 平成30年分			米ドル換算	110.50円/米ドル	平成29年: 112.33円/米ドルと比べ1.6%の円高		

出典: 東京税関資料

注1. 本発表表における港別の貿易額は、東京税関管内の次の官署が管轄する区域に蔵置された貨物の通関額によるものである。東京港(東京税関本関、東京外郵出張所、立川出張所、前橋出張所、大井出張所)、成田空港(東京航空貨物出張所、成田航空貨物出張所)、羽田空港(羽田税関支署)、管内には、東京港、成田空港、羽田空港に加えて、新潟港(新潟税関支署、東港出張所)、直江津港(直江津出張所)、柏崎港(柏崎出張所)、新潟空港(新潟空港出張所)、酒田港(酒田税関支署、山形出張所)を含む。

注2. 「伸び率」は対前年伸び率を示す。



表1-5 成田空港 主要品目輸出入動向(2018年確定値)

主要輸出品目	品目	輸出額(億円)	伸び率(%)	シェア(%)
主要品目1	半導体等製造装置	7,971	10.9	7.0
主要品目2	科学光学機器	7,056	5.9	6.2
主要品目3	I C	5,046	12.3	4.4

主要輸入品目	品目	輸入額(億円)	伸び率(%)	シェア(%)
主要品目1	通信機	19,129	-0.5	14.0
主要品目2	医薬品	15,860	25.0	11.6
主要品目3	I C	12,968	10.3	9.5

主要増減品目	主な品目	輸出額(億円)	伸び率(%)	シェア(%)	主な増減国
増加1位	半導体等製造装置	7,971	10.9	7.0	中国
増加2位	I C	5,046	12.3	4.4	シンガポール
増加3位	電子回路等の機器	4,902	9.6	4.3	米国
減少1位	映像記録・再生機器	829	-38.1	0.7	中国

主要増減品目	主な品目	輸入額(億円)	伸び率(%)	シェア(%)	主な増減国
増加1位	医薬品	15,860	25.0	11.6	スイス
増加2位	原動機	6,066	41.0	4.4	米国
増加3位	電算機類	10,402	14.7	7.6	中国
減少1位	通信機	19,129	-0.5	14.0	中国

主要国・地域別	輸出額(億円)	増減品目	伸び率(%)
対米国	18,983	2年連続の増	内燃機関 5.1
対EU(注3)	14,470	3年連続の増	有機化合物 10.0
対アジア	71,812	2年連続の増	4.4
対中国(注4)	31,421	2年連続の増	半導体等製造装置 1.5
対ASEAN(注5)	21,250	2年連続の増	I C 6.0

主要国・地域別	輸入額(億円)	増減品目	伸び率(%)	輸出入差引額(億円)
対米国	27,046	2年連続の増	原動機 14.1	-8,063
対EU(注3)	29,753	3年ぶりに増	医薬品 13.4	-15,283
対アジア	64,061	2年連続の増	8.8	7,750
対中国(注4)	33,889	2年連続の増	電算機類 6.4	-2,468
対ASEAN(注5)	16,478	2年連続の増	半導体等製造装置 6.2	4,772

出典：東京税関資料

(注) 1 輸出はFOB価格、輸入はCIF価格による。

2 伸び率及び増加・減少は全て対前年比による。

3 対EUの貿易額は28カ国の実績。

4 対中国の貿易額には対香港及び対マカオの貿易額を含む。

5 対ASEANの貿易額は10カ国の実績。

6 本発表における港別の貿易額は、東京税関管内の次の官署が管轄する区域に蔵置された貨物の通関額によるものである。

東京港(東京税関本関、東京外郵出張所、立川出張所、前橋出張所、大井出張所)、

成田空港(東京航空貨物出張所、成田航空貨物出張所)、

羽田空港(羽田税関支署)、

管内には、東京港、成田空港、羽田空港に加えて、新潟港(新潟税関支署、東港出張所)、直江津港(直江津出張所)、柏崎港(柏崎出張所)、新潟空港(新潟空港出張所)、酒田港(酒田税関支署、山形出張所)を含む。

表1-6 給油量

()内は前年度比(単位: kℓ)

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2017
給油量	4,814,666(103)	4,616,953(96)	4,573,250(99)	4,548,549(99)	4,467,712(98)	4,431,669(99)

2 成田空港への乗り入れ航空会社と発着回数

1 定期航空会社別スケジュール 発着回数

(1) 2018年冬期スケジュール

(2018年10月28日～2019年3月30日)

冬期スケジュール期初で、国際線と国内線を合わせた週間発着回数は合計4741回となった。国際線貨物便で一部減便はあったものの、夏期スケジュール中に旅客便の新規就航等もあり、2017年冬期スケジュールを5回上回り、冬期スケジュールとしての最高値を更新した。年間に換算すると24万7209回、1日平均は677回となった。

国際線の週間発着回数は、韓国や台湾方面への旅客便の新規就航と増便等により、2017年冬期スケジュールより15回増えて3755回と、冬期スケジュールとしての最高値を更新した。これは年間換算では19万5796回、1日平均では536回になる。

国内線の週間発着回数は986回。2017年冬期スケジュールに比べると10回減ながら、2018年夏期スケジュールからは18回増えている。

就航都市数は冬期スケジュール期初で、海外が39カ国・3地域の112都市、国内が21都市で合計133都市(136路線)と、冬期スケジュールとしての最高値を更新した。エア・カナダのモントリオール線、フィジー・エアウェイズのナンディ線の新規就航等に加え、バニラエアの石垣線、ジェットスター・ジャパンの長崎線等の新規就航で、国内線就航都市が開港以来の最高となった。

定期便乗り入れ航空会社数は99社と、冬期スケジュール期初として最高となった。6月1日からノックスクートが、7月3日からフィジー・エアウェイズが新規に乗り入れたのに加えて、台中との定期チャーター便を運航していたマンダリン航空が10月28日から定期便化したことにより、航空会社数がさらに増加した。

(2) 2019年夏期スケジュール

(2019年3月31日～2019年10月26日)

夏期スケジュール期初で、国際線と国内線を合わせた週間発着回数は合計4943回となり、開港以来の最高値を更新した。2018年冬期スケジュールより202回増、過去最高だった2018年夏期スケジュールより146回増えた。年間に換算すると25万7742回、1日平均は706回となり、1日の平均発着回数が初めて700回を突破した。

国際線の週間発着回数は3961回と開港以来の最高値を更新。年間換算で20万6538回と20万回を超え、

1日平均では566回になった。チェジュ航空の務安線の新規就航やオーストリア航空のウィーン線の運航再開など、旅客便で韓国や欧州方面を中心に新規就航と増便があり、発着回数が順調に増加した。

国内線の週間発着回数は972回で、2018年冬期スケジュールを4回下回ったが、2018年夏期スケジュールに比べると14回増加している。

就航都市数は夏期スケジュール期初で、海外が40カ国・3地域の115都市、国内が22都市で合計137都市(141路線)と、開港以来の最高値を更新した。国際線ではウズベキスタン国営航空のタシケント線、ロイヤルブルネイ航空のバンダルスリブガワン線など、国内線ではジェットスター・ジャパンによる高知線、宮古(下地島)線の新規就航で就航都市数が拡大した。

乗り入れ航空会社数は、国際線が97社、国内線のみが2社の計99社で、2018年冬期スケジュール期初と同数。運休する航空会社もあったものの、タイ ライオンエアやベトジェットの新規乗り入れなどがあつた。

(3) 2019年冬期スケジュール

(2019年10月27日～2019年3月28日)

冬期スケジュール期初で、国際線と国内線を合わせた週間発着回数は合計4914回で、2018年冬期スケジュールを173回上回り、冬期スケジュールとしての最高値を更新した。この発着回数を年間に換算すると25万6230回、1日平均は702回となった。

国際線の週間発着回数は、旅客便で中国路線を中心に新規就航と増便があり冬期として過去最高を記録したことに加えて、貨物便でも新規乗り入れなどがあつたことから、2018年冬期スケジュールより189回増えて3944回となり、冬期スケジュールとしての最高値を更新した。これは年間換算では20万5651回、1日平均では563回になった。

国内線の週間発着回数は960回で、2019年夏期スケジュールに比べると12回の減少となる。

就航都市数は冬期スケジュール期初で、海外が41カ国・3地域の118都市、国内が22都市で合計140都市(144路線)と、冬期スケジュール期初としての最高値を更新した。国際線で夏期スケジュール期間中の新規就航に加え、冬期スケジュールより厦門航空の福州線、全日本空輸のチェンナイ線、SCAT航空のヌルスルタン線の新規就航などで就航都市数が増加した。

定期便乗り入れ航空会社数は106社と、夏期・冬期を通じて開港以来の最高値を更新した。10月27日からの中国の吉祥航空や春秋航空などの旅客便に加え



て、貨物専用航空会社でも10月30日から中国貨運航空が新規乗り入れを果たすなど、航空会社数がさらに

増加した(表1-7参照)。

表1-7 成田空港への定期便乗り入れ航空会社 (106社)

2019年冬期スケジュール期初

国・地域名	航空会社	コード	備考
アラブ首長国連邦	エティハド航空 エミレーツ航空	E T D U A E	
イスラエル	エルアル イスラエル航空	E L Y	
イタリア	アリタリア-イタリア航空 カーゴルクスイタリア	A Z A I C V	貨物専用航空会社
インド	エア インディア	A I C	
インドネシア	ガルーダ・インドネシア航空	G I A	
ウズベキスタン	ウズベキスタン国営航空	U Z B	
英国	ブリティッシュ・エアウェイズ	B A W	
エジプト	エジプト航空	M S R	
エチオピア	エチオピア航空	E T H	
オーストラリア	ヴァージン・オーストラリア カンタス航空 ジェットスター航空	V A U Q F A J S T	自社機材での運航なし
オランダ	KLMオランダ航空	K L M	
カザフスタン	SCAT航空	V S V	
カタール	カタール航空	Q T R	
カナダ	エア・カナダ	A C A	
韓国	アジアナ航空 イースター航空 エアソウル エアプサン ジンエア 大韓航空 チェジュ航空 ティーウェイ航空	A A R E S R A S V A B L J N A K A L J J A T W B	
サウジアラビア	サウディア	S V A	
シンガポール	シンガポール航空 スクート	S I A T G W	
スイス	スイスインターナショナルエアラインズ	S W R	
スウェーデン デンマーク ノルウェー	スカンジナビア航空	S A S	
スペイン	イベリア航空	I B E	
スリランカ	スリランカ航空	A L K	
タイ	タイ・エアアジアX タイ国際航空 タイ ライオンエア ノックス バンコク・エアウェイズ	T A X T H A T L M N C T B K P	自社機材での運航なし
(台湾)	エバー航空 タイガーエア台湾 チャイナエアライン マンダリン航空	E V A T T W C A L M D A	
中国	厦門航空 海南航空 吉祥航空 山東航空 四川航空 春秋航空 深圳航空 中国貨運航空 中国国際貨運航空 中国国際航空 中国東方航空 中国南方航空	C X A C H H D K H C D G C S C C Q H C S Z C K K C A O C C A C E S C S N	貨物専用航空会社 貨物専用航空会社

国・地域名	航空会社	コード	備考
チリ	LATAM Airlines	L A N	自社機材での運航なし
トルコ	ターキッシュ エアラインズ	T H Y	
ドイツ	アエロロジック ルフトハンザカーゴ ルフトハンザドイツ航空	B O X G E C D L H	貨物専用航空会社 貨物専用航空会社 自社機材での運航なし
日本	IBEXエアラインズ エアージャパン ジェットスター・ジャパン Spring Japan 全日本空輸 日本貨物航空 日本航空 ピーチ・アビエーション	I B X A J X J J P S J O A N A N C A J A L A P J	国内線のみ運航 貨物専用航空会社 国内線のみ運航
ニュージーランド	ニュージーランド航空	A N Z	
パキスタン	パキスタン国際航空	P I A	
フィジー	フィジー・エアウェイズ	F J I	
フィリピン	セブパシフィック航空 フィリピン航空	C E B P A L	
フィンランド	フィンランド航空	F I N	
ブラジル	LATAM Airlines	T A M	自社機材での運航なし
フランス	エア・カレドニア・インターナショナル エア タヒチ ヌイ エールフランス航空	A C I T H T A F R	
ブルネイ	ロイヤルブルネイ航空	R B A	自社機材での運航なし
米国	アトラスエア アメリカン航空 カリッタエア デルタ航空 ハワイアン航空 フェデラルエクスプレス ボーラーエアカーゴ ユナイテッド航空 ユナイテッドパーセラーサービス	G T I A A L C K S D A L H A L F D X P A C U A L U P S	貨物専用航空会社 貨物専用航空会社 貨物専用航空会社 貨物専用航空会社 貨物専用航空会社
ベトナム	ベトジェット ベトナム航空	V J C H V N	
ポーランド	LOTポーランド航空	L O T	
(香港)	エアホンコン キャセイパシフィック航空 香港エクスプレス 香港航空	A H K C P A H K E C R K	貨物専用航空会社
(マカオ)	マカオ航空	A M U	
マレーシア	エアアジアX ファイアーフライ マレーシア航空	X A X F F M M A S	自社機材での運航なし
南アフリカ	南アフリカ航空	S A A	自社機材での運航なし
メキシコ	アエロメヒコ航空	A M X	
モンゴル	MIATモンゴル航空	M G L	
ルクセンブルク	カーゴルクス	I C V	
ロシア	アエロフロート・ロシア航空 エアブリッジカーゴ S7航空 オーロラ航空	A F L A B W S B I S H U	貨物専用航空会社

表1-8 成田国際空港就航都市 (2019年冬期スケジュール)

南北アメリカ方面				ヨーロッパ方面				アジア・中近東・オセアニア方面				国内	
コード	都市名	国・地域	コード	都市名	国・地域	コード	都市名	国・地域	コード	都市名	国・地域	コード	都市名
ANC	アンカレッジ*	アメリカ	LHR	ロンドン	イギリス	ULN	ウランバートル	モンゴル	CGK	ジャカルタ	インドネシア	CTS	札幌
ATC	アトランタ	"	CDG	パリ	フランス	CAN	広州	中国	DPS	デンパサール	"	SDJ	仙台
BOS	ボストン	"	MAD	マドリッド	スペイン	CGO	鄭州	"	CEB	セブ	フィリピン	SYO	小松
DEN	デンバー	"	DUS	デュッセルドルフ	ドイツ	CKG	重慶	"	CRK	クラーク	"	KIJ	新潟
DFW	ダラスフォートワース	"	FRA	フランクフルト	"	CSX	長沙	"	MNL	マニラ	"	KMQ	名古屋
DTW	デトロイト	"	LEJ	ライプツヒ*	"	CST	成都	"	(TLV)	(テルアビブ)	(イスラエル)	NGO	大阪
ENL	ホノルル	"	AMS	アムステルダム	オランダ	CTU	大連	"	AUH	アブダビ	アラブ首長国連邦	HII	高松
IAD	ワシントンDC	"	BRU	ブリュッセル	ベルギー	DLC	福州	"	DXB	ドバイ	"	TAK	松山
IAH	ヒューストン	"	WAW	ワルシャワ	ポーランド	FOC	杭州	"	DOH	ドーハ	カタール	MYJ	高松
JFK	ニューヨーク	"	LUX	ルクセンブルク*	ルクセンブルク	HGH	寧波	"	LSB	イスラマバード	パキスタン	KKJ	北九州*
KOA	ロサンゼルス	"	ZRH	チューリッヒ	スイス	HRB	南京	"	KHI	カラチ	"	FUK	福岡
LAX	メンフィス*	"	FCO	ローマ	イタリア	NKG	北京	"	LHE	ラホール	"	HSG	佐賀
MEM	オーケランド*	"	MXP	ミラノ	"	PEK	上海	"	BOM	ムンバイ	インド	NGS	長崎
OAK	シカゴ	"	CPH	コペンハーゲン	デンマーク	PVG	深セン	"	DEL	デリー	"	KMJ	熊本
ORD	ポートランド	"	HEL	ヘルシンキ	フィンランド	SHE	青島	"	MAA	チェンナイ	"	OIT	鹿児島
PDX	シアトル	"	DME/SVO	モスクワ	ロシア	TAO	天津	"	CMB	コロンボ	スリランカ	KOJ	奄美
PDX	サンディエゴ	"	KHV	ハバロフスク	"	TSN	武漢	"	AKL	オークランド	ニュージーランド	ASA	奄美
SAN	シアトル	"	OVH	ノヴォシビルスク	"	WUH	西安	"	NAN	ナンディ	フィジー	OKA	(石垣)
SEA	シアトル	"	UUS	ウラジオストク	"	XIY	厦門	"	BNE	ブリスベン	オーストラリア	(ISG)	宮古島
SFO	サンフランシスコ	"	VVO	ウラジオストク	"	XNN	西寧	"	CNS	ケアンズ	"	SHI	宮古島
SJC	サンノゼ	"	TSE	名古屋	カザフスタン	HKG	香港	香港	MEL	メルボルン	"		
YUL	モントリオール	カナダ	TAS	タシケント	ウズベキスタン	MFM	マカオ	マカオ	OOL	ゴールドコースト	"		
YVR	バンクーバー	"	IST	イスタンブール	トルコ	KHH	高雄	台湾	PER	パース	"		
MEX	メキシコシティ	メキシコ				RMQ	台中	"	SYD	シドニー	"		
						TPE	台北	"	NOU	ヌーメア(ニューカレドニア)	フランス		
							済州	韓国	PPT	パペーテ(タヒチ)	"		
							釜山	"	GUM	グアム(サイパン)	アメリカ		
							大邱	"	小計	68都市69路線 (旅客便:68都市69路線)	20カ国3地域		
							ヤンゴン	ミャンマー	ADD	アディスアベバ	エチオピア		
							バンコク	タイ	CAI	カイロ	エジプト		
							プノンペン	カンボジア	小計	2都市2路線 (旅客便:2都市2路線)	2カ国		
							ハノイ	ベトナム					
							ホーチミン	"					
							ダナン	"					
							シンガポール	シンガポール					
							コタキナバル	マレーシア					
							クアラルンプール	"					
							バンダルプリスガワン	ブルネイ					
小計	25都市25路線 (旅客便:21都市21路線)	3カ国	小計	23都市25路線 (旅客便:21都市22路線)	16カ国	小計	118都市 (旅客便:112都市)	121路線 (旅客便:114路線)	小計	2都市2路線 (旅客便:2都市2路線)	2カ国	小計	22都市23路線 (旅客便:22都市22路線)
							【海外】 41カ国 3地域	118都市 121路線 (旅客便:114路線)					【国内】 22都市 23路線 (旅客便:22都市22路線)
							成田空港と結ばれる都市:140都市144路線(定期便スケジュール)						

(注1) ※貨物便のみの就航都市
 (注2) 経由便のみの就航都市は右記のとおり:イスラマバード(ISB)
 (注3) (青字) は2019年冬期スケジュール中の新規就航予定。
 本資料は、2019年11月10日～11月23日(14日間)の定期便スケジュールに基づく。



3 東アジアの国際拠点空港としての成田空港

1 発着枠の拡大

成田空港の1日あたりの発着枠は2002年4月18日の暫定平行滑走路（現B滑走路）のオープンに伴い、空港処理能力はそれまでの年間13万5000回から20万回に拡大し、1日あたりの発着枠は370回から546回へと約50%増えた。

2009年10月には暫定平行滑走路の2500m化が完了して運用を開始したことにより、2010年3月以降、段階的に空港処理能力は向上し、2014年度に30万回への拡大を実現している。

国土交通省は、今後の首都圏空港における航空需要はさらに増加が見込まれることから、空港処理能力の拡大を含めた首都圏空港の機能強化を図る必要があるとし、2013年7月、国土交通省交通政策審議会航空分科会基本政策部会の下に設置された、「首都圏空港機能強化技術検討小委員会」において、首都圏空港の機能強化に係る技術的な選択肢がとりまとめられた。

これをもとに、首都圏空港の機能強化の具体化について、関係自治体や航空会社等で協議を行うため、2014年8月に「首都圏空港機能強化の具体化に向けた協議会」を設置。その会合で成田空港については、管制機能の高度化や高速離脱誘導路の整備、夜間飛行制限の緩和などにより、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに、年間約4万回以上の発着回数の拡大が可能という見方も示された。

2015年9月からは「成田空港に関する四者協議会」（以下、四者協議会）において成田空港の更なる機能強化策について検討が進められた。2016年9月の四者協議会では、年間発着容量を50万回まで拡大できるようにするため、B滑走路を1000m北側へ延伸すること、3500mで新設するC滑走路の具体的な位置、夜間飛行制限変更の時間帯などについての具体案を説明・提示した。

その後、100回を超える住民説明会、地元自治体や千葉県からの要望、要請等を踏まえ、2017年6月の四者協議会では、夜間飛行制限の変更と環境対策・地域共生策の見直し案を提案。更なる機能強化の実現に向けて、「地域住民の理解と協力が得られるよう最大限の努力をすること」が確認された。

これを受けて、その後も地域の皆さまへの丁寧な説明を重ねた結果、更なる機能強化の実施について、地元自治体からも理解が得られ、2018年3月の四者協議会において合意し、実施に向けた確認書を締結するに

至った。これにより、B滑走路の延伸、C滑走路の新設などを通じて、成田空港の年間発着枠が30万回から50万回へ拡大されることになった。

さらに2019年2月4日に開かれた四者協議会では、A滑走路の発着時間をこれまでより1時間延長して24時までとする夜間飛行制限の変更を2019年冬期スケジュールから実施することを確認し、10月27日から実施されている。

2 国内・世界における成田空港の位置づけ

(1) 日本の空の玄関口としての役割

日本全国の空港における輸送実績で、成田空港は最大のシェアを占めており、日本の空の玄関口として重要な役割を担い続けている。

国土交通省がまとめた2018年度の「空港管理状況調書」によると、全空港の国際線に占める成田空港の割合は、着陸回数が34.2%、航空旅客数（乗降客+通過客）が33.9%、貨物取扱量が54.1%で、圧倒的なシェアとなっている。また、2018年度の国際線着陸回数を空港別に見ると、トップの成田空港が10万2204回（1日平均281回）、次いで関西空港の7万1599回（同197回）、羽田空港の4万3737回（同120回）、中部空港の2万77回（同56回）、福岡空港の1万9877回（同55回）と続いている。

日本の貿易港として成田空港が重要な役割を担っていることは、金額ベースでも裏付けられている。「外国貿易概況」（日本関税協会）によると、2018年度における成田空港からの輸出額は約11兆2751億円となり、日本からの輸出額の14.0%、輸入額は約13兆5586億円で、日本への輸入額の16.5%を占めた。輸出入額の合計は約24兆8337億円となり、引き続き海港を含めた港別の第1位で、空港としては第2位の関西空港（約9兆894億円）の約2.7倍の規模となっている（表1-9参照）。

(2) 国際拠点空港としての成田の位置づけ

2010年6月に閣議決定された「新成長戦略」で、首都圏空港を含めたオープンスカイの推進が盛り込まれた。オープンスカイとは、参入可能な航空会社の数、路線・便数に係る制限を二国間で相互に撤廃すること。

この「新成長戦略」に基づき国土交通省は、首都圏空港を含めたオープンスカイを推進する交渉を開始し、成田空港では、誘導路の新設とスポットの整備が完了した2013年夏期スケジュール（2013年3月31日）からオープンスカイが適用された（表1-10参照）。2019年

表1-9 全国港別輸出入ランキング (2018年度／確報値)

(単位：百万円)

順位	輸出			輸入			輸出入計	
	港名	価額	伸び率 (%)	港名	価額	伸び率 (%)	港名	価額
1	名古屋	12,525,773	4.5	成田	13,558,622	7.9	成田	24,833,741
2	成田	11,275,120	0.7	東京	11,663,304	-0.4	名古屋	17,893,807
3	横浜	7,550,623	2.6	名古屋	5,368,034	9.4	東京	17,663,205
4	東京	5,999,900	1.0	大阪	4,964,367	3.3	横浜	12,458,449
5	神戸	5,859,586	2.9	横浜	4,907,827	16.3	神戸	9,256,473
6	関西空港	5,166,511	-8.5	関西空港	3,922,892	-3.4	関西空港	9,089,403
7	大阪	4,107,517	5.9	千葉	3,814,859	12.5	大阪	9,071,883
8	博多	2,807,782	31.3	神戸	3,396,888	2.5	千葉	4,683,634
9	三河	2,705,413	2.5	川崎	2,352,726	3.4	博多	3,853,400
10	清水	1,885,059	2.6	四日市	1,721,981	21.7	三河	3,489,395
	全国計	80,709,540	1.9	全国計	82,304,086	7.2	全国計	163,013,627

出典：日本関税協会「外国貿易概況」

(注)「伸び率」は対前年度の伸び率 (%) を示す。

(注) 確報値は、確定値の前段階の数字。確定値が発表されるのは2020年3月ごろ。

10月末現在までに成田空港におけるオープンスカイ合意国は29カ国・3地域となり、成田空港の2018年暦年の国際線発着旅客数に占めるオープンスカイ合意国のシェアは77.2%に達している。

日本経済の再生に向けて、2013年6月に閣議決定された新たな成長戦略「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」でも、「訪日環境の改善」を図る施策として、「LCC参入促進等による航空ネットワークの充実」や「ビジネスジェットの利用環境整備」などとともに、「オープンスカイの戦略的推進」が位置づけられた。

また、2018年6月に策定された「観光ビジョン実現プログラム2018」では、LCCの就航促進に向けた取り組みとして、「首都圏空港は、羽田空港の飛行経路の見直し、成田空港の第3滑走路の整備等により、ニューヨーク、ロンドンに匹敵する世界最高水準の発着容量年間約100万回の実現を目指す」とこととした。このうち成田空港については、「2020年までの高速離脱誘導路の整備等による発着容量約4万回拡大に加え、2018年3月の地元合意に基づき、騒音・落下物対策や『成田国際空港周辺整備のための国の財政上の特別措置に関する法律』による周辺地域の施設整備の促進を行いつつ、第3滑走路の整備や夜間飛行制限の緩和等の更なる機能強化を進め、年間発着枠を50万回に拡大する」とされている。

さらに、2019年6月に策定された「観光ビジョン実現プログラム2019」では、首都圏の空港容量を世界最高水準の年間約100万回への拡大を目指すなかで、成田空港については「高速離脱誘導路の整備を進め、2020年までに発着回数容量を年間約4万回拡大する」ことをあらためて掲げた。また、「2019年冬期スケジュールからA滑走路の夜間飛行制限を緩和する」こ

とに加え、「騒音・落下物対策等を実施しつつ、第3滑走路の整備等に向けた取り組みを着実に進め、発着容量を年間約16万回拡大することを目指す」とされている。



成田空港への乗り入れ航空会社は、2019年冬期スケジュール期初で106社を数え、就航都市数は海外118都市、国内線が22都市、合計140都市とスケジュール期初時点としての最高値を更新した。

なお、国際空港評議会 (ACI: Airports Council International) が世界の空港の利用動向をまとめた「2017 ACI World Airport Traffic Report」によると、成田空港の国際線取扱実績は、旅客数が第18位（前年も第18位）、貨物取扱量は第5位（同5位）となった（表1-11参照）。

表1-10 成田空港におけるオープンスカイ合意国

29カ国3地域 (地域：香港、マカオ、台湾)	
合意年月	国・地域
2010年	米国、韓国
2011年	シンガポール、マレーシア、香港、ベトナム、マカオ、インドネシア、カナダ、オーストラリア、ブルネイ、台湾
2012年	英国、ニュージーランド、スリランカ、フィンランド、フランス、オランダ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、タイ
2013年	スイス、フィリピン、ミャンマー
2014年	オーストラリア
2016年	スペイン、ラオス、カンボジア、ポーランド
2017年	パプアニューギニア、インド

※ネパールとの航空当局間協議により成田空港を含む乗り入れ地点の拡大等が合意 (2018年6月)

(2019年10月末現在)



表1-11 世界の空港国際線ランキンング
(1) 国際旅客数

順位・年	2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017	
	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人	空港名	千人
1	ロンドン (LHR)	61,346	ロンドン (LHR)	60,651	ロンドン (LHR)	60,903	ロンドン (LHR)	64,688	ロンドン (LHR)	65,258	ロンドン (LHR)	67,325	ドバイ	69,954	ドバイ	77,453	ドバイ	83,106	ドバイ	87,722
2	パリ (CDG)	55,825	パリ (CDG)	53,032	パリ (CDG)	53,150	パリ (CDG)	55,675	ドバイ	57,120	ドバイ	65,876	ロンドン (LHR)	68,091	ロンドン (LHR)	69,816	ロンドン (LHR)	71,030	ロンドン (LHR)	73,187
3	アムステルダム	47,349	香港	44,979	香港	49,775	香港	52,753	パリ (CDG)	56,201	香港	59,274	香港	62,901	香港	68,071	香港	70,098	香港	72,462
4	香港	47,141	フランクフルト	44,521	ドバイ	46,314	ドバイ	50,192	香港	55,656	パリ (CDG)	56,768	パリ (CDG)	58,627	パリ (CDG)	60,367	アムステルダム	63,534	アムステルダム	68,401
5	フランクフルト	46,708	アムステルダム	43,521	フランクフルト	46,307	アムステルダム	49,681	アムステルダム	50,976	シンガポール	52,775	アムステルダム	54,941	アムステルダム	58,246	パリ (CDG)	60,385	パリ (CDG)	63,697
6	ドバイ	36,592	ドバイ	40,104	アムステルダム	45,137	フランクフルト	49,477	フランクフルト	50,749	アムステルダム	52,528	シンガポール	53,289	シンガポール	54,836	シンガポール	58,158	シンガポール	61,574
7	シンガポール	36,288	シンガポール	36,089	シンガポール	40,924	シンガポール	45,429	シンガポール	49,910	フランクフルト	51,316	フランクフルト	52,713	フランクフルト	53,994	ソウル (ICN)	57,152	ソウル (ICN)	61,521
8	成田	32,324	成田	30,895	ソウル (ICN)	32,950	バンコク (BKK)	35,009	バンコク (BKK)	39,358	ソウル (ICN)	41,303	ソウル (ICN)	44,907	ソウル (ICN)	48,720	フランクフルト	53,708	フランクフルト	57,122
9	ロンドン (LGW)	30,434	マドリード	29,066	成田	32,164	ソウル (ICN)	34,538	ソウル (ICN)	38,351	ソウル (ICN)	40,786	アタテュルク	38,153	バンコク (BKK)	43,252	バンコク (BKK)	45,291	バンコク (BKK)	48,812
10	バンコク (BKK)	30,104	バンコク (BKK)	28,835	バンコク (BKK)	31,418	マドリード	32,450	マドリード	30,617	アタテュルク	34,079	バンコク (BKK)	37,183	アタテュルク	41,998	台北 (TPE)	41,877	台北 (TPE)	44,480

※成田は18位
(33,091)※成田は18位
(31,991)※成田は17位
(30,548)※成田は16位
(29,592)※成田は13位
(30,490)※成田は13位
(29,629)※成田は13位
(26,503)

(2) 国際貨物量

順位・年	2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017	
	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	空港名	千トン	千トン	
1	香港	3,627	香港	3,350	香港	4,128	香港	3,938	香港	4,025	香港	4,127	香港	4,376	香港	4,380	香港	4,521	香港	4,937
2	ソウル (ICN)	2,386	ソウル (ICN)	2,268	ソウル (ICN)	2,634	ソウル (ICN)	2,484	ソウル (ICN)	2,397	ドバイ	2,436	ソウル (ICN)	2,474	ドバイ	2,506	ソウル (ICN)	2,603	上海 (PVG)	2,907
3	成田	2,059	ドバイ	1,846	上海 (PVG)	2,344	上海 (PVG)	2,265	ドバイ	2,280	ソウル (ICN)	2,395	ドバイ	2,368	ソウル (ICN)	2,490	ドバイ	2,592	ソウル (ICN)	2,826
4	パリ (CDG)	2,010	成田	1,810	ドバイ	2,183	ドバイ	2,190	上海 (PVG)	2,156	上海 (PVG)	2,159	上海 (PVG)	2,334	上海 (PVG)	2,395	上海 (PVG)	2,523	ドバイ	2,654
5	フランクフルト	1,963	パリ (CDG)	1,785	フランクフルト	2,149	フランクフルト	2,084	成田	1,952	フランクフルト	1,974	台北 (TPE)	2,073	成田	2,036	成田	2,083	成田	2,263
6	上海 (PVG)	1,916	上海 (PVG)	1,778	パリ (CDG)	2,142	パリ (CDG)	2,045	フランクフルト	1,939	成田	1,941	成田	2,043	台北 (TPE)	2,005	台北 (TPE)	2,081	台北 (TPE)	2,253
7	シンガポール	1,857	フランクフルト	1,758	成田	2,126	成田	1,899	パリ (CDG)	1,903	シンガポール	1,850	フランクフルト	2,007	アンカレッジ	1,957	フランクフルト	1,986	シンガポール	2,125
8	ドバイ	1,741	シンガポール	1,634	シンガポール	1,814	シンガポール	1,865	シンガポール	1,806	パリ (CDG)	1,835	パリ (CDG)	1,858	フランクフルト	1,951	シンガポール	1,969	フランクフルト	2,066
9	アムステルダム	1,568	台北	1,345	台北	1,753	アンカレッジ	1,686	マイアミ	1,652	アンカレッジ	1,676	シンガポール	1,844	パリ (CDG)	1,861	パリ (CDG)	1,916	アンカレッジ	1,998
10	マイアミ	1,544	マイアミ	1,332	アンカレッジ	1,742	台北	1,612	アンカレッジ	1,646	マイアミ	1,675	アンカレッジ	1,787	シンガポール	1,853	アンカレッジ	1,901	ドーハ	1,994

出典：ACI「2017 World Airport Traffic Report」